2
Rakujitsu
no
PATHOS
Presented by
Tsuyatsuya
艶々
落日のパトス
PA
OS
ヤングチャンピオン
コミックス
YC COMICS

落日のパトス 2

Presented by
Tsuyatsuya

RAKUJITSU-NO-PATHOS
落日のパトス 2

CONTENTS

【初出】別冊ヤングチャンピオン 2015年8月号～2016年3月号

隣の部屋から漏れ聞こえた理性を失った嬌声は、かつての恩師のものだった…。

高校時代の憧れだった教師、仲井間真。

彼女のあられもない姿を覗き見てしまった藤原秋。かつての苦い思い出と欲望が交錯する中、同じアパートの〝隣人〟として交流を始めた二人。しかしその関係は少しずつ、少しずつ歪み始める。

それぞれの抑えきれない欲望のままに、背徳の世界が今、始まろうとしている…。

【人物紹介】

藤原 秋
Aki Fujiwara

連載漫画家を目指す青年。仲井間にかつて犯した行為を後ろめたく感じていた。
普段は物静かな性格だが、性的な好奇心は人一倍旺盛。

仲井間 真
Makoto Nakaima

旧姓：祐生。藤原の高校時代の恩師。現在は結婚し、退職。夫の仕事の都合で藤原の住む町に引っ越してきた。年の差婚で、男性経験は夫ひとりだけ。最近、夜の夫婦生活に物足りなさを感じている。

まさみ
Masami

藤原が大学時代に所属していたサークルの後輩。時々藤原の仕事を手伝ってくれる。垢抜けない感じの少女だが、胸が大きくスタイルは良い。
仕事に来るたびに忘れ物をしてしまう。

RAKUJITSU-NO-
PATHOS

第9話
キミは全部
聞いてたの？

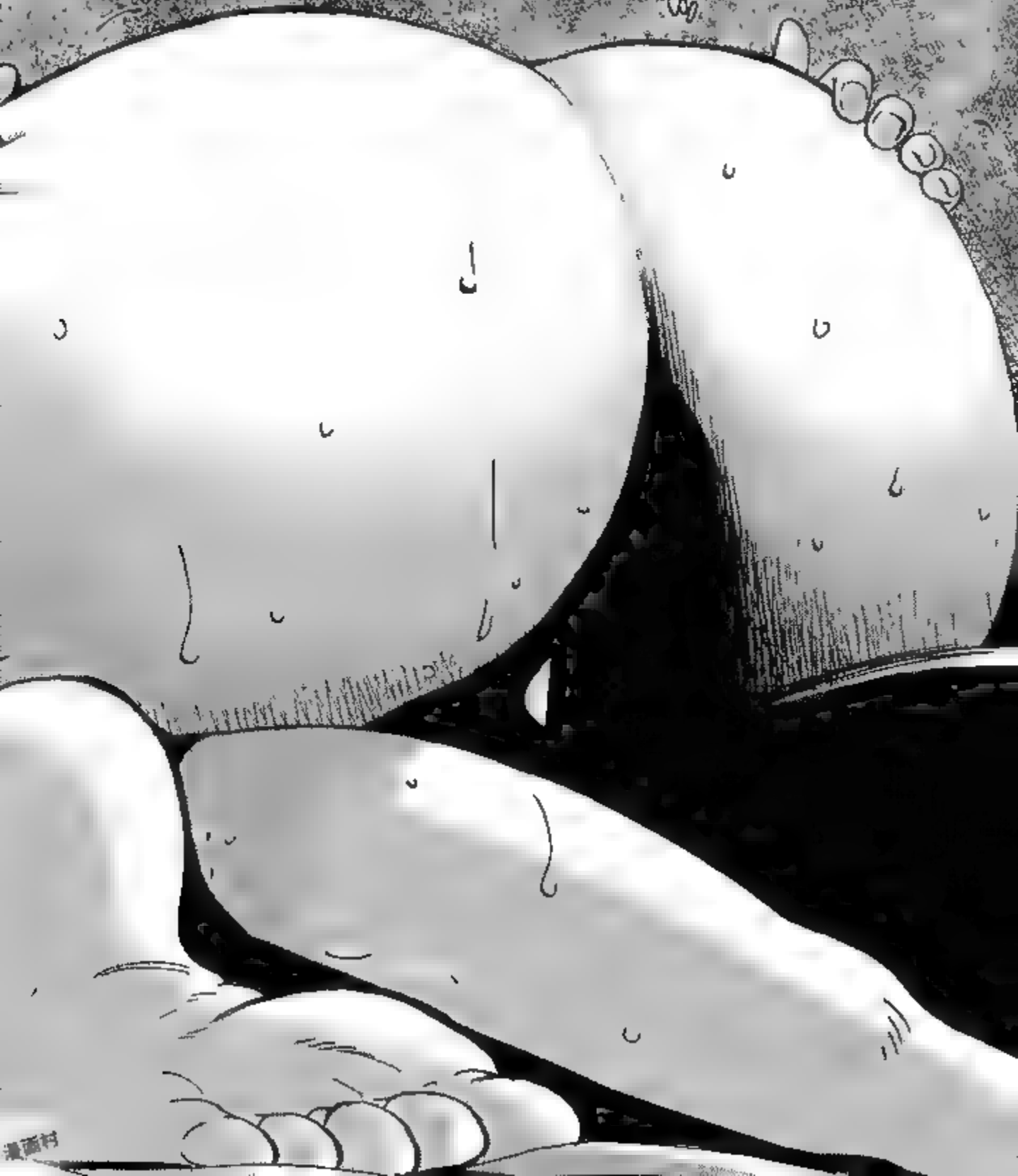
はっ
んっ
407
仲井間
は
ギシッ
あっ
ギッ
なんだ今日はまたずいぶん

早く風呂に入ったと思ったら…
あ…
あはっ
はっ
そんなに…おっ
激しくして…
あんっ
だって
久しぶりだし…っ
…っ…
……わたしっ
……
…っ
ん？
どうした？
……あなた…
はっ
はっ
お願いもっと…

は…
ギュ
はっ

んっ
少し…
たまには…
私にも…
は
はっ
して…ッ
ギュク

ふあ

あ
おっぱい…ッ
あひっ
ああ
手がっ
乳首!?

い…っ…っ
でも
あ
ギュ
なんか
ジンジン
するう
ギュ
はっ
もっと…
…もっと!!
強く…
もっと…
いっ
はぁ
もっと…
ん？
こうか？
ん
あっ
ひ

たまんない…ッ
これッ
やだっ…
声が…っ
あ――…
はっ
ひあっ
おいおい
すごい声だな
おとなりまで
聞こえちゃうんじゃ
ないのか
あんっ
はあ
そんなの
そんなこと
どうでも…ッ
やっ
そんなのッ
いいのっ
声なんて
となりが
どうとか

藤凉くんとこから…よね…？
けっこう声聞こえるんだな…
女の子…か

けっこう声
聞こえるんだな・・・
……ッ

漫画村
ん？
どうした？まこと
あっ
…んっ
ううんっ…
ごめんなさい

ちょっと…なんか…
なんだろう…
その…気分がいきなり…
なんだ気持ち悪いのか？

これまで…
ずっと…
ずっと!?
聞かれてたの!?
私…

ゴミ出しのとき
なかった?
あの居酒屋…
ちょっとカマした帰り道
私のオッパイ柔らかかった?
今日からダンナさん
散々歳上女ぶってきて
なのに一番えげつない
私の・あ・の声・
全部…聞かれてたの……!?
それをサラッとしたカオで
知らないフリしてくれてたの…!?

ザァァァァァァァァ

なんにせよ…
このままにはしておけない…
コチ
コチ
アキくんに……
どうする…
そう…
いっそ…
いっそ…
殺す…か…

じゃあまた
少し家
空けるけど
よろしく
頼むぞ
はい
いってらっしゃい
はあ
…夜って
こわいなー
精神が
ダークに
なるよね…
！

おつかれさまでしたぁー
ごめんねー結局朝まで…
いえいえ！気にしないでください！
ああそうかアシスタント…来てたっけ
ゆっくり休んでくださいねー
ゲンコー出してからね
朝まで一緒なんてやっぱり…
！
まさかあの子にも私の声…
あ！
え!?
おはようございまーす!!
！

あ…っ
えっと
おはよう
ございます
いい
お天気で
気持ちいい
ですねー

それじゃ先輩
原稿落としたり
しないで
くださいね
あ…
うん
じゃ
失礼
しまーす！

トン
トン
トン…
あ…あの
すいません
朝から
にぎやかで
あ…
ううん

あの子のあの感じだと…聞いてない……!?
大変ね朝まで仕事だったの？
いや…ハハ…スケジュール通りいかなくてなかなか…ハハハ
バタバタですよもう…
ま…まあそういうもんよね…
予定は未定…っつーか
いや…でも…!!彼女はともかく…
この子は少なくともこれまで…
私が引っ越してきてからずっと
何度も
何度も
何度も

私の・・・あの声を・・・
そうかー大変だねー……
―――……
……
?
先生?
あっ…いや
えっと
ごめん
え?

どうする

いっそ今
聞く!?

スパッと
勢いよく
いく!?

今はムリ！

じゃあ今日の夕方…また一緒にご飯しない？

だけど!!

こんなモヤモヤしたまま

今日からまたダンナさん出張なのよ

あー じゃあぜひ

ここにいられない…!

はーい

生お待ち！

ありがとー

空のグラスね

第10話 私の声がオカズなの？

は…ははっ
ダンナさん
お酒飲まない
から…っ
やっぱ久しぶりに
なっちゃうと…ね
逆よ
逆!!

いいこと
どころか…ッ
それにしても
先生のダンナさん
出張多いんですね

ほんと
飲まなきゃ
やってられない
僕の聞いてる
だけでも
週の半分くらい
出張してる
ような…
そもそも
どうやって
切り出そうか
……
先生?
あ…?
ああ
うん
そうなの
教育関係の
教材の
セールスでね

でも…それじゃあさみしいですね…
いつも一人で…
え？
あっ
さみしい…って？
身体が…？

え…
か…らだ…？
──あ…っ
あっ…

なに言ってんの私…ッ
あ…あー
そういえば……

……

き…昨日から
彼女がお手伝いに
来てたんだねっ
あっ ああ
まさみちゃん
いやだから
彼女じゃ
なくて…
アシスタント
ですって
まあでも…
ずいぶん
助かりました
来てくれて
一人だったら
どうなってたか…
アシスタント
…ねぇ
けっこう
ガチャガチャ
した子よねー
あ
わかります?
そりゃもう
そっちの部屋から
あの子の
楽しそうな
声がよく
聞こえてきて
——…
あ

……
……

ワイ
ワイ
ワイ

か…
カベが…薄いから…かな…?
——!!

私のお…
…大きな
……

……くしゃみとか…
聞こえないかな〜〜〜…
く——って…

ザワ
ワワ
ザワ
ワイ
あ…
あ――〜〜――…
そう…です…ね
…くしゃみとか…ね…
き…

聞こえ…
ます…
ね…

あ…あのっ……
でもっ…先生…僕…

ありがとうございやしたー

おにいさん…焼酎…!!
ヘイ!
イモで?ムギで?

イモ…!
ヘイ
飲み方は?
ロック…水割り…

ストレートで
でかいグラスに
…山盛り

うっ…
うえっ
…はっ

うえ…
うっ
は
先生…
大丈夫ですか？

全部出しちゃって…！
うっ
うぶ…
ぶ…
出しちゃえばラクになるから

ほら…

！

う…
は
はっ
え…？
せ…先生…
あの…
ブラ…
外す…とか…
しなくて…
いい…？

…?
なんで…?

えっ いや
なんで…って…
ほら… 締めつけてると……
余計 悪いかな…って

……
だから…
……
……

ううん…
いい
ありがとう…

……
そう…
そうですよね…

…優しいね…アキくん…
え？

あんな…
あんな…声さんざん聞かされてるのに……
なのに…ッ

ウソみたいでしょ…ッ
普段…こんな…平然としたツラしといて…
あんなケダモノみたいに…ッ
でかい声だして…ッ
まるで…変態よね…ッ
私…ッ

そっ…

そんなこと
ない…ッ

僕だって…

そんな
先生の声
…聞いて…
興奮
してました…っ…

すごく…
すごく…!!
だから…
それなら…
僕だって…
変態です…
だって…

先生の
…その声を
聞いて…
一人で…ッ

アキくん…
私の声で…

……
それじゃ…
おやすみ…

バタン
バタン

は

はっ

は

はっ

……

アキくん……ッ
私の…声で…？
ほんとに……？
はっ
はぁ
は
私の声で……？
はっ

第11話
もうすぐ嵐がやってくるの?

ザァァァァァァ
やれやれ
よりによってこんな日のこんな時間から出張だなんて
台風は夜半に最接近するみたいだから気をつけて
はい
今回も4日間だからその間よろしく頼むよ
じゃあいってきます
ザァァァァァァ
いってらっしゃーい
……
カツ
カツ
カツ
心なしか…ダンナさんの靴音が軽やかな気が……する…

前の出張から戻って過ごしたこの5日間…
やっぱり…
全然…セックスしなかったせいかな…
はあ…
そりゃ…わかってるわよ……
毎晩のように求めれば…
私よりひとまわり近く歳上なんだしそりゃ疲れるよね…

でも…
私…初めてが
結婚してから
だったし…
はあ…
…ていうか
なんで
もっと
若いときに
…しておかな
かったんだろ…
ん…
ゴソ…
こんな…
はっ…
こんなに
気持ちいいって
知ってたら…!!
モゾ!
モゾ…

はっ

手で…してたな…

はっ

ああ…そうだ…アキくんが…保健室に来た…

あの日も

あのベッドで……
あ…
あんなところで……
私…
バカ…っ
あ…っ
は

だめ…っ
だから…
声が…出たら…だめだから…
…っ
声を…出さず…
ふ
……
むくり
……
…っ
ふっ
私…
声ガマンしてるとイケない…!?

でも…っ
なにか…
なにか…
タオル…
ふっ
んッ

これ…
…ッ
これなら…ッ
ん…
イケる…っ！
ふっ

フッ
ンヴッ
あ
アキくん…っ
ちがうんです
僕っ
先生の声
聞いて
興奮
してました

アキくんが…ッ
んッ
私の…あの声…でっ
私のこえ…
ーーッ

あんな…
んっ
あんなに…
かわいい
カオして

私のエッチな
声を聞いて
おちんちんを握って
オナニー
してるんだ…っ
ん
ん
ッ
漫画村

はっ
はぁ
は
はっ
はっ
はっ
また…
アキくんで
イッちゃった…
グイ
……

そういえば…
あれから
全然会ってないな…

……

アキくん…
私の声で
……
オナニー
してたの…？

…デリカシー
なさすぎだな
…私
いくら
酔ってたとは
いえ…

……

ほんと…
どうしてるん
だろ…
5日間も
会わない
なんて…

ザァァァァァァ
カラカラ

ザァアアアアアアア
よっ…
わぁ結構見えるもんね…
でも…
洗濯物…干しっぱなしだわ
いつから干してるんだろう…
じゃあ…カーテン…もひょっとして…
ずっと閉まったままなんじゃ

まさか…
あれから
ずっと…？
でも…
だって…
……
フツーじゃ
ないよね
5日間も
閉じこもり
っぱなしなんて
まさか…!!
あんなことで
アキくん…
世を
儚んで…!?

アキくんっ
アキくん!?
アキくん!!
大丈夫かな…
あ?
開いてる!?

ガチャッ

アキくんっ

え？

え…っ
せっ…
先生!?

どうしたん…ですか……!?
は？ど…？
どう…
どうし…たって……

なに優雅にお風呂とか入っちゃってるのよ！
は!?

いやっ
やっと…ネームがあがったんで…久しぶりに
サッパリしたいなー…って

漫画村

え…!?
停…電？
やだ…っ
ウソ…
風が強くなってきたから…
電線かなにか…

この部屋なら
僕わかりますから

肌!!

あれ？先生濡れてます？
え!?
ドキッ

髪がずいぶん…
あっ…ああっうん
廊下に結構吹きこんで…

あの…タオル貸しますし
電気点くまで少し…いますか？

…うん

第12話 ほんとに見えてないの？

先生
こっちへ…

おっ
これで少しは周りも見えますね

あっ…

そうだった…すいませんなんか着てきます
あっ うん

それにしても——

ダメだよ
玄関カギ
開けっ放しだし
洗濯物も
あんな…
あー
……

玄関…は
夜中
コンビニ行った
とき…か
洗濯物は
……
忘れてました

何しろ
3日間…
ずっとネーム
やってて…
ネーム?

あ マンガの
…その…
下描きの
下描きみたいな
もんです
それが
なんつーか
一番
ムツカしくて…

それで外にも出ないで？
はい
あ
コンビニは一回行きましたけど…

それ以外ここの中で？
ずっと!?
はい

……マンガ家ってみんなそうなの？
外で…カフェとかファミレスでやる人もいますけど…
僕は家にこもるほうですね……

不健康～
はははは
自覚してます

でも…

良かったよ…
何事も
なくて…

あ…
その…
心配かけて
…すいません

ううん…
ほんと…
良かった…
私の
変な質問の
せいじゃなくて
……
は…
ふあ

はくちゅっ

…さむっ
あっ…シャツも濡れてます?

カゼひいちゃうから…
えっと…ちょっと待って…
いってっ

あったあった
間違えて小さいサイズ買っちゃって全然着てないやつなんです

良かったら着替えて下さい
いいの?
はい

じゃあ…
――って
隣で…
着替えたら
…いいのかな…

真っ暗…
よね
そうですね…

…ちょっと
…怖いですかね
……
…そ…
…そうね

じゃ…
じゃあさ
私…
着替える間

そのライト
消してて
もらって

そこの
襖閉めないで
いてくれたら
……
大丈夫かな
あー…

それなら…
見えないよね

はっ？

やっ…そりゃ
…もうっ
大丈夫です…！
見ませんし！
ははは
見えないって
てゆってんの

じゃあ…
消してくれる？

わあ
ほんとに
真っ暗だっ！
ほんとだ…

うわー
Tシャツ
分かるとこ
置いて
おかなきゃ
……
ですね

……
……

何か しゃべってよっ
誰も いない みたいで 怖いよっ
あっ
はいっ

それにしても …アレですよね

こーゆー… ほんとの… 闇っていうの…
随分 久しぶりだな ……って
あー…
そうねぇ

都会にいると
いつもどこかが明るいもんねぇ
そうなんですよね
ん…濡れてへばり付いて…脱ぎにくい……

もうすでに光のないところのほうが珍しいっていうか

どうしよう
ブラも取るか…
正直ちょっとキモチ悪いし・

でも…アキくんの部屋で…ブラを取るって…
それも…田舎とか行くとフツーなのかな——…こういうの

そういえば…こんな…真っ暗な中でハダカになるの……って

ダンナさんとの

初夜…
以来だわ

――先生？

すぐに…
気持ちよく
なりだして
上になって
すること
覚えたりして

なんで…
ほんとに
もっと早く…
経験して
おかなかった
のか…

先生？
あの…
大丈夫
ですか？

えっ

あっごめん何？
……
何でもないです…

――あ、

シルエットだけど…
アキくんが座ってるの…見える…
目が慣れてきたのかな

ス
ああ…
なんだろ
シュル
あのとき……
初めてダンナさんの前で肌をさらしたときみたいに…
すっごいドキドキしてる

――……
ほら……
……
アキくん
キミの好きな……
私の

私の
おおきな
おっぱいだよ

ザァァァァァァァァ
あっ！
点いた
先生…—
良かった
これ…丁度いいくらいよ
…っ

え？

あの…
ブラ…下着も
濡れてました
…か？
え…

！

それに…
その…

胸の…先…が…
……
先生…
ミシ
アキくん…？
ガタアアアアア…

4コマのパトス

第13話
そっとさわっていいの?

ミシッ・・
アキくん……？

あの…これ タオル…
肩から 掛けておけば 隠せるかな…って

シュルッ
あ… そう… そうね
ありがと

しかし 相変わらず すごい雨 ですねー
ね

また停電するとなんだし…
しばらく…こっちの部屋にいます？

アキくんはいいの？
はいもうネームも終わったし

じゃあ…
一人も心細いし…いちゃおっかな

あっじゃあゴハンまだでしょ？わたしが作ろうか！
え？
でも…

いいよいいよお礼も兼ねて作ってあげる！
いやっでもあの…っ

がらんっ
…ほほう…
卵と…ネギのみ……か
その…カンヅメ状態でコンビニメシばっかりで…

ゴハンは？あるの？
ああ…冷凍でしたら……
よし！じゃあそれ使ってチャーハン作ろう！
えっ

で…っできます!?
まーかせて！こう見えて主婦なんだから！
ネギチャーハン♪

えーと…
……

ごめんなさい……
いえ…

まさか…フライパンがあんなに焦げ付くとは…
うちの…テフロン全部…剥がれちゃってるし…
使いにくかったでしょうし…
いいですよ僕ちょっとコンビニ行ってきますから
……お願いします

タオル…ジャマだったな…
でも…
そうでもしないと…
僕はきっと……胸ばっかり見ちゃう…
戻りましたぁー
ようやく小降りになりましたよー
……？
先生…？

先生…？
えっ
あっ

あっ…とごめん…ちょっと…ここにあった雑誌読んでたら……
その……
あー

ちょっとエロがきついほうのですねー
女の人はあんまり読まないから…
珍しいですよね

そっ…そう！
アキくんこういうの読むのかなぁ～って……

あ…いや読むっていうか
？

僕も…
そういうの
描く人なので
……
それは
同人本
え？

あんな…
なんていうか
……
その…
丸見え…の
その…
全部…の
アレ…？

……
とりあえず
…ご飯に
しましょうか

いや－…
そっかぁ
アキくんが
エロいのをねー

今はもう少しソフトなのですけどね
んー
でも

なんか…ちょっと
ショック…
いや違うな

衝撃…っていうのかなー
アキくんがあんな〝セックス〟を描いてるってゆーのが…

なんだか…不思議…で
……

あああ…！ますます先生に…僕が軽蔑されていく…ッ
え!?

軽蔑なんてしてないよ？わたし

むしろ…
なんか…すごいなぁ…って
すごい…って何がです？
何…ってゆーか…

わたしの…知らないエッチなこと…いっぱい…知ってる…し…
それは別に…色々見たり読んだりしてるだけで…
耳年増みたいだな
……

・・アレ…ってあんなに真っ直ぐ…

真上…を向くもの…？

いや！だって…！
さっき読んだのなんてさ！
バーン！って!!
自分のヘソを叩くように――よ!?

あーれはいくらなんでもデフォルメでしょ!?
ね!?
……

えと…いや…
わりと…真上向くのは…珍しくない…かなー…とか

シュル…
……
あれ…？
おかしい…な…
でも…うちって…
あんなじゃなくて…
ナナメ下に…真っ直ぐに…
上…はなくて…
あれ？
なんで……？

んー？
あ…あの…
でもっ
個人差もあるし…っ
やっぱり年齢とかもあるかと…
年齢…？
タオル…が…
…いつの間にか取れて…!?

でもほら
今まで おつきあい
した中に…とか
いませんか?
もっと若い頃
とか…
……
わたし…
ダンナさんしか
…知らないし…
え——
あ…あー…
…そう…
ですか…
じゃあ…
この…
巨・大・な
これは
あのダンナさん
以外の
誰にも…ッ

誰の手にも
堕ちてないのか!?

じゃあ
他の人は…
フツーに…
あんな…?
いや
待てよ

でもあの
ダンナさん…
オッパイは
どうでも
いいのかな…!?
そうだ
僕が見た
2回とも
……
手では
触れてなかった…

自由に
暴れてたっけ
……

ああ…
ダメだ
こんなこと
……
本人
目の前にして
考えてたら…

じー…

ねえ…
じゃあ

アキくんは
どうなの？
はっ…？

アキくんのは・
…上…
…向く…?

まあ…
わりと…
わり…と……？
…はぁ…
ふ…ふーん…

ガ
やだ…

アキくんのが……
全然堅い……

第14話 どうしてそんな間が悪いの？

せんせ…いっ…
あ…あっ
はっ…
はっ
…はっ
は
先生…の…指の…感触が……
まだ…残ってる…

第14話
どうしてそんな
間が悪いの？

指の…一本一本の
感触が…

知らなかった……
こんな…こんなに……
……
あぁ…でも…もし・
わたし…
こんなの…が‥
先生…？
ね…アキくん…
……

びくんっ
あっ
はっ
えとっ
はい！
あ！
どもっ…
あっネーム！
見てもらえましたか！
はい
大丈夫ですっ！
はいっ
あー…
はい
そうですね

はい…
そうですね ――はい
あー 分かります 分かります
はい
なるほど
はい
じゃあ トページから トはざっくり
ですね
はい

――っあ!
はいっ
大丈夫です!
はい じゃあまた 早めに 送ります!
失礼します!
帰っちゃった のか…
――あ…
アキくんへ

アキくんへ
お仕事もあるだろうし
帰るね
アキカンは
持って帰ります。
P.S
こんどはちゃんとした
ゴハンつくってあげるから
リベンジ!
――って
ことは…
また…
来るって
ことだよな…
・・・あんなコトが
あったのに
また来るって
ことは…

先生も……
あの続きを少し期待してる…？
いや…期待ってのはおかしいか
…でも
何か…あの先へ
あれよりもっと先へ…
先生が来たら…
何か…もっと…こう…いやらしい…その…

……
…いつ来るか
分かんないじゃん!!
さっきの紙に
書いて
ないじゃん!
まあ…
そうだよな…
社交辞令って
ことも…
あるよね…
逆に
照れ隠しで
ご飯を…
とか
書いたとか
…
…そんなトコ
だよね…
そんな…
都合よく…
ゴン
ピンポーン
ビクゥッ

ひょっとして……
はっ…
はいっ
ガチャ
！
へへっ
作ってきたよ！
先生…
やっぱりちゃんとした材料と
ちゃんとした調理器具がないとね！
ははは

じゃあんっ
ほら！
おお！

先生…
ニヤ
ニヤ
んー？

ほんとに料理…出来るんですね…
失礼ね！ウソだと思ってたの!?
あーいやいや

あの…でもこれ…一人分じゃ……？

えっとだって…アキくんの分だから

あー…

…なんだ
そっか…
そうですよね……

い…

い?

一緒に…食べられるかと…はは…は

しーん

じゃ…じゃあ
少し多めに作ってきたし
わたし…もご飯まだだし……
一緒に…食べる…?
は…はいっ
じゃあ食器から二つに分けようか
お皿出してくれる?
あっでもこのままでも…
やった! これであとは…
また一緒にお酒とか飲んだりして……
この前みたいな雰囲気になれば……!
そうだ! ビールあったかな!?
じゃあ…
えっ

せんぱーい
こんにちはー
いますー？

例の…カノジョ…？
ちょっ…いや彼女じゃないです…っ
…でもっ
……
……
先生…っとりあえず
…隣に隠れてて…っ
え？え？
グイ
グイ
グイ
お願いしますっ
でないと…面倒な感じに……
お願いします
……分かったわよ

ス…ッ
センパーイ?
はっ
は〜いっ
今開けるねー…

やっ…
やあ
ごめん
おまたせ
すいませーん！
ひょっとして
寝てました？
ううん
大丈夫
ってか
どうしたの？
今日は
あっ
そうだ！
その…！
また…
忘れ物
しちゃったの
気がついて…
ほら！
この前の
仕事のとき
……

なのでちょっと上がって捜させてくださいね
え？
あっ

確か寝室にあるはずですから…
えっ

ちょっと…寝室は……
先生が!!

大丈夫ですよ！
あるとこも目星ついてるんで！

えーっと
ああ!!

先生を隠したのがかえってアダに!!
なんもないなら隠す必要ないし!!
よけいに誤解を招くようなことを…ッ

あー ありました! ありました!

えへへ… ベッドの下に落ちてました…
ストッキング…

そ…そりゃよかった
先生……
おはずかしい
どこへ!?

…まあ それは あとでもいい …
とりあえずは まさみちゃんを やり過ごして …それから…
あれー？
先輩 こんなちゃんと ご飯 作るんですかぁ？ すごーい！
されてた！
なんか 意外ー
先輩 料理とか するんですね
えっと… そうねー… たまーにね
でも… そっかー
よかったら 一緒にご飯 でもって 思ってたんだけど ……
作っちゃって たんですねー
あーうん そうだね 残念だけど ……
ん―…
美味しそう だなー
えっ

結構量ありますよね…
チラ
無理したら二人分くらい……
私もお相伴したいなー…なんて
先輩の手料理！
でもだめかなー
……
い…一緒に食べるかい？
わーい！
じゃあ食器出しますね
あー
あー…
うん…
あっそういえばあれからどうなりました？
え？何が？
ほら！私がシャワー借りたとき
聞こえてたじゃないですか
発情期のネコの声！
すっごいの聞こえてましたよねー！

ネームのときとか
うるさくしてたら
大変だろうなって
気になって
たんですよー
き…
聞こえて
たのか…!!
あれから
どうですか？
……
…うん…
平気だよ…
まあ…
今…
同じ部屋に
いるんだ
けどね…
あー
じゃあ良かった
ですねー！
君と
僕と
その猫と…
うん

RAKUJITSU-NO-
PATHOS

RAKUJITSU-NO-
PATHOS

第15話
まるで痴話喧嘩じゃないの？

あー!
ありました
ありました!

えへへ
ベッドの下に
落ちてました
あー…
そりゃ
よかった

おはずかしいー

スッ…
なんか…そんな予感あったから
隠れておいてよかった…
あちー
すすす
でもナットクいかないけどね！
“彼女”じゃないなら
なんで私が隠れる必要があるんだか！

美味しそう だなー
え
ん？

私もお相伴 したいなー …なんて 先輩の 手料理!!
なんか アキ君が 作ったことに なってるし!!

…ああ… でも…そうか 私の存在が ないことに なってるなら
……仕方ないのか
じゃ…じゃあ 一緒に食べる？
――って それより…

わーい！
なんで その子も!! 食べるの!!
あ そういえば どうなり ました？

私がシャワー借りたとき聞こえてたじゃないですか――
発情期のネコの声！すっごいの！
!!

気になってたんですよー
あー…うん平気だよ
これって
まさか私の…
アレのときの……!?

そんな!?そんなに!?
ズズズ
そんなに聞こえてるの…？
しかも発情期のネコと間違われるなんて…
いや…助かるけど…
おいしー!!先輩料理上手！
そ…そお？ありがとー…
!?

でも…
この卵焼き
ちょっと味
濃すぎませんか?
え?

あ…あー
そう…かなー?
僕は…
これくらいが

もっと
調味料
ひかえた方が
上品な味に
なりますよ
ふふっ

小娘(こむすめ)!!

いや…
落ち着け
私……
そう…
彼女に罪は
ないわ…
むしろ…
罪つくりは
アキ君…

あははは センパイったら もー
ほっぺに ついてますよー
あははは
……なんなのよ …ほんと…
私が せっかく 作ってきた ご飯
あの子にも 食べさせ ちゃって…

私は… アキ君が 食べるトコ
イメージ しながら 作ってきたのに …な

見ることも 出来ないなんて…
ごちそうさま でした
あー おいしかった
そう？ よかった？
そうだ 先輩！ 海行きませんか!?
え？

だって夏の間中ネームばっかりじゃないですかー
もう9月になっちゃうけどまだこの暑さだし泳げますよ！

……

えっとまさみちゃんは…行ったの？
はい！
1回だけですけどアシ友達と！
楽しいですよやっぱり海は！

うーん そうだね……
でもまだネーム終わってないから…

じゃあ早めに終わらせましょう！
あー…はは そうだねェ

私
先輩と
行きたいんですからねっ
ほんとにっ
…うん
がんばるよ
それじゃ
また仕事でも
そうじゃ
なくても
呼んで
くださいねっ
ーーうん
それじゃ
ごちそうさまでしたっ
またね
……
そうじゃなくても…？
ガチャッ

ふぁ――ッ
暑いよ
あの部屋!
すいません
すいません
すいません
すいませんっ
まあ…
あの子が
来たのは
アキ君の
せいじゃないから
仕方ないけど
!
そもそもさー
パタ
パタ

アキ君は
ほんとにあの子と
どういう
関係なワケ？

アキ君？
あ!?
えッ
いや

何度も
話したとおり
大学の
後輩で…
ただの
友達…ですよ

…あのさ
じゃあなんで
私が
こんな暑い
思いしてまで
隠れてなきゃ
いけないの？

彼女でなければ私がまるで
浮気相手みたいなこんな扱いしなくていいじゃない?
いやよしんば彼女だったとしても!
後ろめたい関係じゃないんだから堂々と…!

…後ろめたくない…関係…
…です…か?

え

じゃあ…
昨日の…アレ…は?

先生は…平気なんです…か……？

そ…それは…っ

僕は…なんだか…

特別な…ことでした

…よ？

アキくん…！

あれは…だって…
酔ってて…なんだか…
スイッチ入っちゃって…
気づいたら触ってて…!!
正気に戻ってからうめいたりしてたのよ
うああああああああああおおお
うん…そうね
ごめん…
あれは…私…どうかしてた…

だから彼女じゃないですってば！

だったらなんで泊まってくの!?シャワー浴びてくの!?

だからそういう仕事なんですってば！

あの子とは!!
そもそもなんにもありませんよっ
セックスどころかキスだって!!
……
そうなの？
…ええ
でっ…でも……したいと思ってるんでしょ？

思ってません！
うそ！
あんなかわいい子!!
うそじゃないですっ

おっぱいだっておっきいし！
先生のがおっきいしッ!!

……ッ
あっ いやその…っ

…私と比べても……
しょうがないじゃない…

いや…そりゃおかしいですけど…
でも…比べちゃうっていうか…
考えちゃって——そう！

だから！僕が先生と一緒にいるとこ…
そんでテンパってる姿見せたくなくて…

……でも
不自然よ
そんなの
……

つきあっちゃえば⁉
あの子と
え…っ
ほら
さっき
海行こうって
言ってたじゃない⁉
チャンス
じゃないの
……
さっき…僕が
それ聞いたとき…
まっさきに…
なに考えてたと
思います…？
え…？

まさみちゃんには
悪いけど…
頭の中で
イメージ
してたのは
先生と
…一緒に海に
行けたらなぁ
…って
ピクッ

やばい…
考えまい思うまいとしてきたのに…
ああ…でもやっぱりだめ…
この子…!
かわいい…!!
だめだよ…アキ君…
そんなカオ…
せつなくなるじゃない…

さっきはああ言ったけど…本当は…
あんなのとつきあうなんて
ヘラヘラ
しやがって
本当は許せないのよ……!?

だって…ッ
なんか
なんかもう
許せないの……ッ
わかんないけど
じ……
我慢してたのに
大人になったのに
?
歳上の分別あるオトナでいようとしたのに……

そう…分別のある……!
じ…じゃあ…
なのになのに…

一緒に…行こうか？
わたしの言葉がウラハラ…！
海

大丈夫…
きっと…
大丈夫
なんてことは
ない…

私が
分別つければ
…きっと
わ…
わあいッ
大丈夫
だから…

RAKUJITSU-NO-
PATHOS

4コマのパトス

この卵焼き味濃すぎませんか?
小娘!!

見てろ小娘!!
とるいっっちょっと減塩を
これくらい?まだ濃い?
モグ
モグ
モグ

先生ちょっと太りました?
おのれ小娘!!
味見しすぎた

最近料理美味くなったな
ちょうどいい味付け
小娘…!!

第16話 胸がはち切れんばかりなの？

わあー
全然まだ
夏っぽい
じゃなーい！
ザザ…
ザザー…ン
ですね！
9月に
なったなんて
思えないねー
ほんとに
来てしまった
……!!
先生と
……
海水浴に!!
水着ー
先生の
水着!!
とはいえ
……
ビーチは
閑散と
したものねェ…
まあ…
夏休みも
終わっちゃったし
……

海の家も
おしまいに
なってるし…
解体中だ…
でも ほら
だから家から水着
着てきて
正解でしょ？
まあねー
じゃあ
早速
泳ぎますか
何か？
いえ
じ…じゃあ
先生も…
水着に…
ん…
じゃあ…
いよいよ
……!!

さっ
いこっか
え…？
えっと…
え？
あの…
Tシャツ…
脱がない…の？
……
別に…
これでも…
海入れるし…

あの…
ボトムだけでも
……
けっこう…

いいな…！

ひっ
冷たッ
おわっ
こっ…これはけっこう
やっぱり…夏っぽくても…海は正直ねェ…
いやでも……こういうのはガマンして水に入っちゃえば……
おぉおっ
ひー

はっ
うん
ほら
けっこう入っちゃえば大丈夫！
ほんとに〜？
じゃあ覚悟を決めて…
くっ
はひっ
まあちょっとは慣れるかな
もう平気ですよ
おっ
ね？
う〜ん…

ザーーッ

ザーーッ

あー

でも…いやあ
夏っぽい
感じだぁー

——うん

やだ…
ここ…足つかない…!?
あー
ちょっとここで急に深くなってますね
えっ
やっ
ちょっ

だめっアキくんっ
は!?
こわいっ
は!?

足つかないとこダメなのっ
ちょっ…先生落ち着いて
大丈夫ですって

……!

はっ
はっ
はぁ
あっ
はっ
ああ…！

やわらかい…！
こんな…
あっ…
あっ…
でも…
やば…っ
！
あ…！

ザーーッ
ザーーッ
はっ
はっ

はっ
はっ
ザバ
ザバ
先生
タオル
ありがとう
ブル
ブル
ふー…
！
寒い…
ですか？
ん
ちょっとね
先生
Tシャツ
脱ぎましょう
え？

シャツが
濡れてるから
余計冷えるん
ですよ
でっ……
でも……

これ…
脱ぐと…
水着
着てるん
ですよね!!
そりゃ
着てる
けど…

大丈夫
ですよ！
ここ海なん
ですから！
でも…

それが
フツー
ですから！
……

でも…
…じゃあ

ちょっと…
アキくん…
見てみてよ
……

あの…

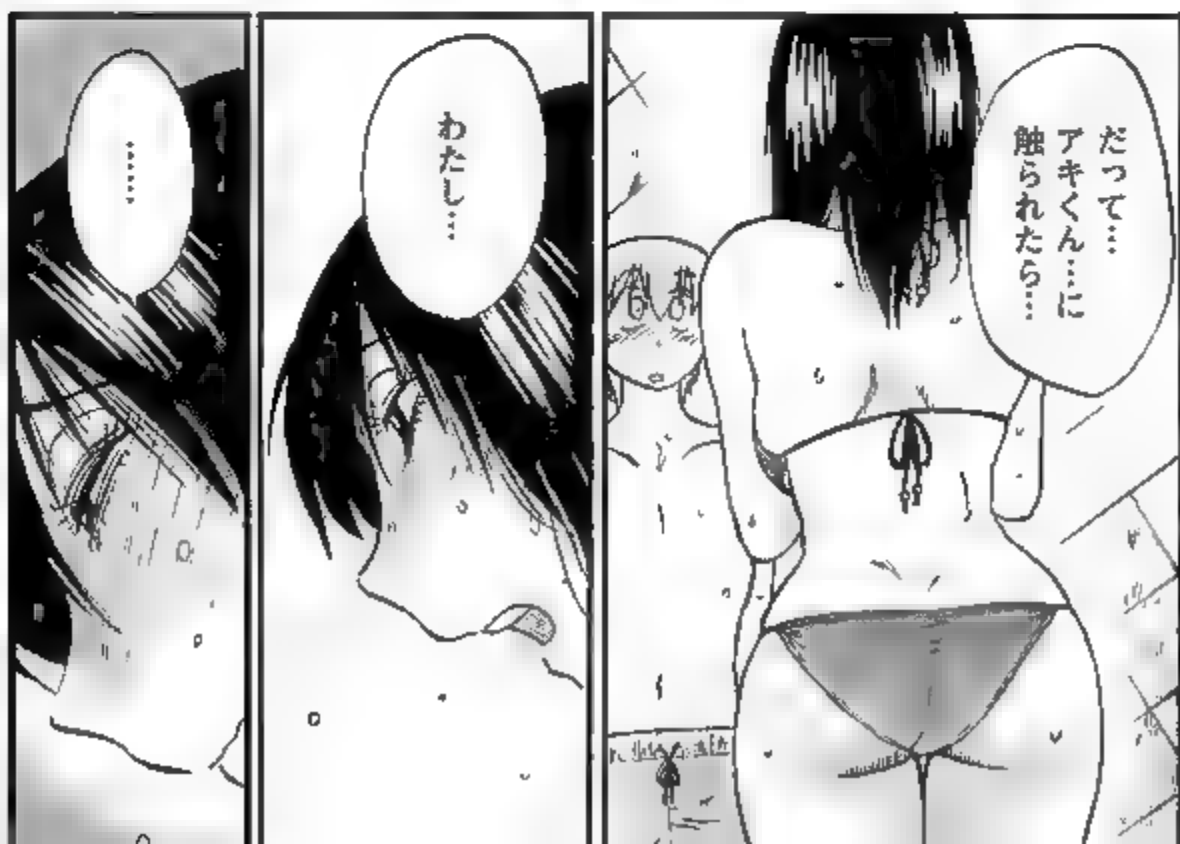
笑わ…ないでね…

ガイ

？

はあ

バ

……!!
あれから慌てて水着……買わなきゃ……って
でも…恥ずかしいし…通販で…って
一応サイズ見たんだけど…
思ったより小さくて…全然収まんなくって…
すっ…
すごい…!
ギュウギュウに詰まって…
あんなに

先生…すごい…

エロい…

!!
そん…な…
アキくん…
ひどいっ
え⁉
いや
ち…違う！
僕は…
先生っ
ステキです…ッ
エロくて…
とても

ステキ…ってこんな間抜けな…っ
間抜けじゃないです!!
エロ…いやセクシーで…
肌だって…きれいですし…っ
……
…僕…は…っ
あのとき…保健室で

先生の…シャツ越しの胸…を見たときから…
ずっと…
ずっと…！そう思ってました……
でも…よこしまなことだって…
考えないようにしてきて…
でも…
やっぱり…考えちゃうんです…！

ふ…
触れてみたくって
そんな想像も
してて…
どんなにか

やわらかいの
かな…って
…そ
そんなの
……
ダメよ…
だって…
アキくん…に
触られたら…
わたし…
……

す・・・
すこしだけ・・・だよ？
「落日のパトス」第2巻／完

あとがき

単行本第2巻
お買いあげありがとうございます！

さて、2人の距離も近づきつつあり
描いてる方も益々楽しくなってきました。
正直まだどうなるか作者も読めてない
わけですが…一応言っておきましょう
乞う御期待！

今回の
表紙のボツ案

4コマのパトス

じゃあ一緒に行こうか？

絶対ですよ約束ですからねっ
あんなに喜んで…
じ～

そうだ水着買わなきゃ
あっ男性用のもある…
カチ
カチ
どれどれ

新たな扉を開いた先生でした
ムキ
ムキ

RAKUJITSU-NO-
PATHOS

RAKUJITSU-NO-PATHOS 次巻予告
ついに二人は
もう大人だから大丈夫
元教師と元生徒の関係だから大丈夫
そんな言い訳は通用しない
触らせたら
きっと…
アキくんに触られたら…
おお
見てみたいな
せっ…
あっ
禁断の隣人愛欲物語。

陽は沈み
背徳の夜がやってくる
一線を越えてしまう・・・？
は……
…くんの せい…
は？
どうしよう……
下着… 全部 忘れた…
ひっ
だめ… です…
溺れてしまおう。このまま。
『落日のパトス』最新第3巻を乞うご期待。

■ヤングチャンピオン・コミックス■

落日(らくじつ)のパトス②

2016年5月1日　初版発行

著　者　艶々(つやつや)
©Tsuyatsuya 2016

発行者　秋田貞美
発行所　株式会社 秋田書店
〒102-8101　東京都千代田区飯田橋2-10-8
☎編集(03)3265-7362　販売(03)3264-7248
製作(03)3265-7373
振替口座　00130-0-99353
印刷所　三省堂印刷株式会社

Printed in Japan

ISBN978-4-253-14072-0

デジタル版　2016年発行
製作所　デジタルカタパルト株式会社
http://www.digital-catapult.com